

令和4年1月8日

南の風 2021 ウインターカップ特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

京都精華は、速攻から瀬川選手が3Pシュートを放つ。桜花玉川選手が思わずファウル。瀬川選手が2本沈める。(24対27 京都精華リード)

桜花もすかさず速攻から玉川選手がドリブルシュートを決める。京都精華は八木選手が左45度からドライブショットを放つ。玉川選手がたまたまファウル。

ここで桜花学園がタイムアウト。八木選手がフリースロー1本決める。

桜花は中々オフェンスリズムが掴めなかったが、9番横山選手が左ショートコーナーからドライブショット決める。このショットは左手ドリブルから、ディフェンスのブロックを意識して右手にボールを持ち替えての見事なショットであった。(28対28の同点)

桜花は続けて、8番森選手が右コーナーからバックカットした伊波選手にパスして得点する。京都精華も負けじと、堀内選手が左45度からペイントにダイブした八木選手にパスを合わせて得点する。1年生コンビのタイミングのよい合わせプレーであった。

前半を終了して30対30の同点。両チーム一歩も引かない展開となった。

桜花はオフェンスリズムが悪い中、我慢をしてディフェンスで流れを掴み、特定の選手が得点するのではなく、5人がスペースをつくる努力をし、空いたら果敢にペイントアタックや、外にキックアウトして攻めていた。特に12番玉川選手の3Pシュート、9番横山選手のドライブショットは流れを引き寄せる効果があった。さすが経験豊富な桜花学園の試合巧者ぶりが目立った。

京都精華は、ベンチが2人の留学生の調子を見ながら交代を繰り返し、それぞれの良さを引き出していた。また、1年生の17番堀内選手のガード力が目を見張った。常にコート全体を見てプレーし、1年生とは思えないパスのセンスで目を観客を沸かせた。そして堀内選手のパスに16番の八木選手が上手く合わせていた。桜花のディフェンスが、留学生と外の瀬川選手に集中したところをスペースに飛び込みシュートを決めたシーンは圧巻であった。

両者ががっぷり四つに組んだ見ごたえのある前半でした。スタッツを書きます。

桜花学園		京都精華
30	T S	30
2/7 28.6%	3 P	3/5 60.0%
11/25 44.0%	2 P	9/31 29.0%
2/2	F T	3/5
16	T R	25
8	T O	7

両チームの特長が表れています。

次号に続きます。